

阪南メンネルコールのホームページに掲載している宮本先生の指導語録です。普段の練習時に教えていただいた内容を江川他が記録にまとめたものです。練習の一助として参考にさせていただければ幸いです。

記録 江川

指導楽曲	指導語録
ふるさと 1番	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音取りを気にしないで思いっきり声を出して元気良く歌いましょう。少々自分のパートの音がはずれてもどこかのパートの音であれば、目立ちません。気にせずに声を出してください。 2. 前奏を聴いてイメージを膨らませましょう。イメージした絵を楽譜に貼り付けてみて歌いましょう。 3. 宿題：みなさんそれぞれ「故郷」のイメージを描いてきてください。 4. 日本語の意味を大事に。日本語の言葉を話すように。言葉の一つ一つをきったり、言葉を途中で切ったりしない。「う、さ、ぎ、お、い、し、か、の、や、ま」と言葉をぶつぶつと区切るのではなく、「うさぎおいし、かのやま」と言葉をつなげる。小学校時代の歌い方が出ているように思う。大人の表現で歌いましょう。 5. 3拍子の歌は、最初の言葉は強く。 6. 15小節のトップと2ndは、「めーぐーりーて」を直線的に歌うのではなく柔らかく回すように歌う。「ぐー」の歌い方は、エレベーターで昇るのではなく、エスカレーターで昇る感じで。 7. 21小節目からの「2回目の「わすれがたき ふるさと」は、もっともっと抑えて歌う。 8. 22小節の <i>rit.</i> は、だんだんゆっくりの意味 9. 23小節の「ふるさと」は、テヌートがついている。目いっぱいオーバーに丁寧に歌う。「ふるさと」の「と」は弱く、遠くに投げる感じで。
冬景色	<ol style="list-style-type: none"> 10. 宿題：みなさんそれぞれ「冬景色」のイメージを描いてきてください。 11. 275小節からのトップと2ndは、音取りが難しいので、しっかりと練習する。 12. 275小節からの bari と bass は、メロディーを歌う。八行の言葉の最初は母音しか聞こえないことになるので、八行の言葉をはっきりと発声する。 13. 284小節のトップと2ndの「こはるびのー」は、もっと軽く、がんばりすぎないように。
雪	<ol style="list-style-type: none"> 14. 宿題：みなさんそれぞれ「雪」のイメージを描いてきてください。 15. 299小節からの雪は、紙風船を手のひらで上げるような感じで、やさしく歌う。重い雪、重い雪にならないように。 16. 305小節のリズムを大切に。スキップのように跳ねる。弾む感じで。 17. bari と bass は、「雪」のメロディーとは全く違うので、「雪」のメロディーにつられやすい。音取りをしっかりと練習すること。音取りができれば、トップと2ndのメロディーを聴きながら歌えるように。
春の小川	<ol style="list-style-type: none"> 18. 宿題：みなさんそれぞれ「春の小川」のイメージを描いてきてください。 19. 春の温度を感じるように。ピアノは冬から春になった温度を感じた表現になっているよ。

	<p>20. 情景を思い浮かべながら言葉をつなげるように歌う。</p> <p>21. 30 小節目からの「さらさらいくよ きーしのすみれや・・・」で「いくよ」の「よ」で止まってしまう感じがある。次の「きーしの」につないでいく。2 拍の余韻で息を吸う。ゴムを伸ばすように、柔らかく、「きーしの」につなぐ。35 小節、39 小節も同じように歌う。</p> <p>22. 34 小節の「れんげの」の「げ」は下あごを下げないように。</p> <p>23. 37 小節の <i>bari&bass</i> の「やさしく」の「し」の音は、下がり過ぎないように。</p> <p>24. 38 小節の <i>poco f</i> は、少し大ききの意味</p> <p>25. 40 小節の「さーけよ」は、「さあーけよ」と発声する。</p> <p>26. 42 小節の <i>sub. p</i> は、すばやくピアノシモにの意。味。「ささやきながら」は文字通りささやくように歌う。</p>
<p>朧月夜</p>	<p>27. 宿題：みなさんそれぞれ「朧月夜」のイメージを描いてきてください。</p> <p>28. 46 小節の出だしに遅れないように。しっかりと音取りをする。春の小川との間奏が短いので注意する。</p> <p>29. 50 小節まで <i>トップ&2nd</i> は、お休みになる。50 小節の「みわたすやまの一は」は、<i>mp</i> で入る。最初から一緒に歌っているか心の中で思っていて、「みわたす」につなげると弱く入りやすい。</p> <p>30. 51 小節の「やまの一は」の低音部は、「の一は」部分の「一」は下がりすぎないように。</p> <p>31. 55 小節の「そよふーく」は、「そよふうーく」と発声する。2 番も同じく「なくねえーも」と発声する。</p> <p>32. 59 小節の「かかりーて」は、「かかりいーて」と発声する。2 番も同じく「かすめえーる」と発声する。</p>
<p>ふるさと 2 番と 3 番</p>	<p>33. 音符を横に感じる。</p> <p>34. 320 小節からの 2 番は、ピアノ伴奏がない。音符を横に感じながら静かに穏やかに歌う。</p> <p>35. 320 小節の「いかにいます ちちはは」は遠くに思い、しみじみと静かにおだやかに歌いだす。「はは」の最初の「は」は長めに歌う。「はっは」に聞こえるので注意する。日本語の「母」を表現する。</p> <p>36. 328 小節の「あーめに」は「ー」で音が下がっているが、歌い方としては上がっているように歌う。</p> <p>37. 同じく「あーめに かーぜに つけーてーも」口を縦に開くことを意識して歌う。横に開くと大阪弁になる。紳士的にしゃべろう。</p> <p>38. 330 小節の <i>トップ</i> と <i>2nd</i> は、「つーけーてーも」の歌い方は 1 番と同じ。直線的に歌うのではなく柔らかく回すように歌う。</p> <p>39. 333 小節の「いずる」の「い」は、言い直す。</p> <p>40. 333 小節から始まるテヌートの箇所は、その音の長さを十分に保ち、強調して歌う。「ふるさとの」の「と」は次につなげるようにピアノを感じる。</p> <p>41. 3 番は、2 番とイメージが異なるように。</p> <p>42. 337 小節から始まる最初の「こころざしをはたして」は、男の本懐を表現し、はっきりと力強く歌いだす。</p> <p>43. 343 小節の「かえらん」の「ん」は、上あごに舌をつけるようにして口を閉じないで発声</p>

する。口を閉じると言葉が聞こえないので。

44. 351 小節の「ふるさと」の「と」の音にはデクレシェンドがついているが、トップだけは、音を消さないで次につなげていく。
45. 353 小節からのトップは、*Poco meno mosso*（ちょっとゆっくりと）を意識する。
46. 355 小節のトップの「ふるさと」は、ていねいに音符の長さいっぱい唱歌う。
47. 356 小節からの 2nd は、「うさぎ」はでしゃばって出ていく。「うさぎ」は母音を明るく、口の前で歌うように。
48. 358 小節の 2nd は、「かのやま」を明るさをキープし、下がらない・山の頂を通すように。
49. 362 小節のバスの「うさぎおいし」は、体を横に膨らませ、広げるようにして厚みのある音を出す。
50. 367 小節の 2nd とバリトンの最後の音は、とくに重要な音。ピアノ伴奏にない音で次の音が柔らかくなるかどうかがかかっている。しっかり音を取ってほしい。
51. 368 小節からの「Ah—」は、少し明るく歌う。